

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	こどもプラス宜野湾教室		
○保護者評価実施期間	令和7年 2月 1日 ～ 令和7年 2月 28日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	1	(回答者数) 1
○従業者評価実施期間	令和7年 2月 1日 ～ 令和7年 2月 25日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数) 5
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年 3月 14日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	放課後等デイサービスの児童と一緒に活動し、年齢が上の児童と交流しながら、何かに讀いて困っている時には直ぐに支援できる体制を整えている。また、ご家族とも向き合いながら支援の方向性を決めている。	ご本人様の目線で物事を考え、困り感を共有して成功へつなげる支援や日々の会議や声掛けを行い、全ての支援者が同じ方向性を持って支援出来るように取り組んでいる。	グループ活動やペア活動を通して、支援者と児童ではなく、児童と児童で困り感を解決できるように始めは支援者は間に入るが、やがて一人に対応できる力を見出せる事や自己決定が行える支援に取り組んでいく。
2	児童の送迎の際に保育園の先生や保護者と申し送りの確認をすることで、日々の児童の様子をお互いで共有出来ている。	保育園の担任の先生や支援の先生の顔と名前を覚え、日々の様子を共有したり学校での出来事を含め自宅に送り返す際に保護者へ申し送りすることで保育園・家庭・児童デイのトライアングルを強化している。	今後の地域意向を踏まえ、それぞれの児童の地域にある公民館や児童館、地域や公園などでの交流等の取り組みをより行っていく。
3	屋外活動で地域散策や地域イベント（例えば、ハロウィンなど）で地域の皆様に事業所に通っている児童を覚えてもらい福祉サービスについても理解してもらっている。	各学校近辺の公園や児童センターに足を運び、事業所の児童だけでなく、その場で遊んでいる児童に声をかけ一緒に遊ぶ取り組みも行っている。	地域の児童センターや公園で遊んでいる児童だけでなく、地域にある福祉事業所の児童達とも交流を通して仲良くなるなど他事業所とも交流を持つことも計画している。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	児童発達支援の受け入れを開始したばかりであり保護者会の開催が出来ていない。	放課後等デイサービス利用児童は多数在籍しているが、未就学の児童が少ない為開催できていない。	次年度から土曜日も開所する為、土曜日に保護者参加型のイベントを設け、保護者や地域を巻き込んだ活動が出来るよう工夫していく。
2	教室が広々としていることはいい事だが、活発な放課後等デイサービスの児童と未就学の児童と一緒に過ごす時には工夫が必要。	事業所内は広々としている為、座って遊ぶボードゲームを広げて遊ぶ事もある。その際に、動いて遊んでいる児童が走り回ってぶつかる恐れがある為、区切りを設定して工夫している。	職員が充実している時は思い切り遊べるよう別れて行動出来るプログラムを作成していく必要がある。今後は、プログラムを工夫し、未就学の教室等に分かれて取り組むことが出来るよう改善していく。
3	年間計画を通して安全面を大々的に保護者にも児童にも周知できるようにしたい。	年間計画や防災訓練、避難訓練、活動内容などをその都度周知しているが、保護者に行き届いていない様子が確認できた。日々の会話の中でご家庭へ伝えたり、メールや広報誌などでもお知らせはしているが、送迎でお会いできない保護者には足りなかった。	年間計画、その他、大事な計画や報告は送迎時以外でも、周知してもらえるようどんどん話していく。また、メール以外でもお知らせなど広報活動に取り組み、取りこぼしなくお伝えできるようにしたい。